

一 一切智地四字の事

此の一切智地の四字に法華經一部八卷文々句々を収めたり。此の一切智地とは三諦一諦非三非一なり。三智に約すれば空智なり。さては三諦とは云ひ難し。然りと雖も三諦一諦の中の空智なり。されば三諦に於て三々九箇の三諦有り。先づ空諦にて三諦を云ふ時は、空諦と呼び出だすは假諦けたい、空諦なるは空諦なり、不二なるは中道なり。三諦同じく此くの如く心得べきなり。所詮此の一切智地をば九識法性くしきほっしょうと心得べきなり。九識法性には迷悟不二・凡聖ぼんしょういちによ一如なれば空と云ふなり。無分別智光むぶんべつちこうを空と云ふなり。此の九識法性はいかなる処の法界を指すや。法界とは十界なり、十界即諸法なり。此の諸法の当体、本有の妙法蓮華經なり。此の重に迷ふ衆生の為に、一仏現じて分別説三するは、九識本法の都を立ち出でたるなり。さて終に本の九識に引入する、夫それを法華經とは申すなり。一切智地とは是なり。一切智地は我等衆生の心法なり。心法即妙法なり。一切智地とは是なり。